



平成19年9月28日

各 位

会 社 名 株式会社ふくおかフィナンシャルグループ  
 代 表 者 取締役会長兼社長 谷 正明  
 本社所在地 福岡市中央区天神二丁目13番1号  
 (コード番号 8354 東証第一部、大証第一部、福証)  
 問 合 せ 先 経営企画部長 吉田 泰彦  
 (TEL.092-723-2502)

## ふくおかフィナンシャルグループ「第二次中期経営計画」の策定について

ふくおかフィナンシャルグループ(取締役会長兼社長 谷 正明)は、親和銀行の完全子会社化(平成19年10月1日)を機に、グループ中期経営計画を一新し「第二次中期経営計画」(期間2.5年:2007年10月1日~2010年3月31日)をスタートさせることといたしました。また、併せて福岡銀行、熊本ファミリー銀行及び親和銀行の中期経営計画もFFG「第二次中期経営計画」の方針に沿って策定しましたのでその概要をお知らせします。

本計画に基づき、新たな広域展開型地域金融グループとして、グループ一体の経営戦略を展開し、広範なネットワークによる充実したサービスを提供してまいります。また経営資源を有効に活用したビジネスモデルの共有により、経営統合によるグループシナジー(相乗)効果を早期に実現してまいります。

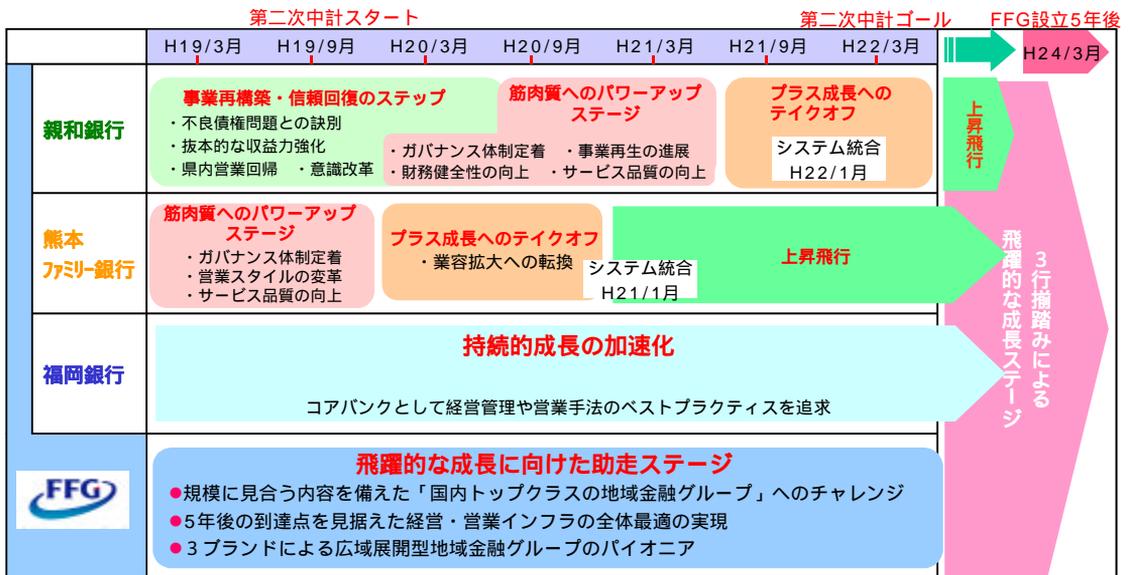
### 1.グループ経営理念・グループブランド戦略

当社グループは、統一的なグループ経営理念により、株主の皆さま、地域社会、お取引先、従業員等様々なステークホルダーに対して、価値創造を提供してまいります。また、経営理念を具体化し、グループ内外でのコミュニケーションを通してグループの企業像や提供価値を伝えるブランド戦略の統一を進めて参ります。

<b>グループ経営理念</b>	<b>コアバリュー</b>
ふくおかフィナンシャルグループは、 <b>高い感受性と失敗を恐れない行動力を持ち</b> <b>未来志向で高品質を追求し</b> <b>人々の最良な選択を後押しする</b> すべてのステークホルダーに対し、価値創造を提供する金融グループを目指します。	いちばん身近な いちばん頼れる いちばん先を行く
	<b>ブランドスローガン</b> あなたのいちばんに。

### 2 本中計の位置づけとFFGが目指す将来像

当社グループは、19年4月の設立に合わせ「第一次中期経営計画」を策定しましたが、この10月、親和銀行の当社グループ完全子会社化を機に「第二次中期経営計画」として再スタートすることになりました。



親和銀行は、バブル経済崩壊以降、不良債権問題が足枷となり前向きな営業拡大に踏み込めず、収益基盤の縮小に歯止めがかからない状況でしたが、この10月に当社グループ傘下となることを機に、「不良債権問題との訣別」及び「抜本的な収益力強化」に取り組むこととなります。第二次中計期間は、当社グループが持つ不良債権処理ノウハウを活用することで「不良債権問題との訣別」を実現し、事業再構築と併せて、地域社会、お取引先からの信頼を回復させてまいります。さらに財務健全性及び、サービス品質を向上させることで顧客基盤の拡大を図り、プラス成長を確実なものとする体制を整えてまいります。

熊本ファミリー銀行は、当社グループが持つ不良債権処理のノウハウをフルに活用し、財務体質改善に向けた過程にあります。不良債権問題により営業に専念できない体制から脱却し、現在営業スタイルの変革に取り組み、その成果も徐々に具現化しております。熊本ファミリー銀行における本中計は、次なる飛躍的な成長ステージに向け、プラス成長を確実なものにするステージと位置づけ、諸目標もより実現可能性を高めた内容としております。

このように本中計は、次なる「飛躍的な成長ステージ」に向けた「助走ステージ」となりますが、その間福岡銀行は、当社グループのコアバンクとしてグループ収益力の牽引役となり、持続的成長を加速化させてまいります。

当社グループは、高度で良質な金融商品・サービスを提供するとともに、顧客基盤を拡大し、地域社会への貢献、企業価値の持続的成長を実現することで、規模に相応しい内容を備えた「国内トップクラスの地域金融グループ」を目指してまいります。その将来像の実現に向けて「第二次中期経営計画」の諸目標を設定しました。

		第二次中計最終年度 (21年度)	目指す姿 (5年後)
<b>規模</b>	総資産	12兆円	13兆円
	総貸出金	8.4兆円	9兆円台半ば
	総資金	10.7兆円	11兆円台半ば
<b>収益性</b>	3行合算コア業務純益	1,000億円	1,200億円以上
	FFG連結当期純利益	500億円	650億円以上
<b>効率性</b>	ROE	7%台半ば	8%台半ば
	OHR	50%台前半	40%台
<b>健全性</b>	不良債権比率	2%台半ば	1%台
	自己資本比率	9%程度	10%台

### 3.FFG 第二次中期経営計画」の基本方針

FFG「第二次中期経営計画」は、グループ体経営体制を確立するとともに、FFGによる統一された経営戦略を展開することで顧客基盤を拡大してまいります。また、事務・ITの共通化及び人財の融和がもたらすメリットを追求することにより、統合シナジー効果を早期に最大化することを基本方針といたします。

#### 【基本方針】

- グループ体経営体制の確立
- 統合シナジー効果の早期実現と最大化
- FFGカルチャーの創造

### 4.実施期間

期間 2.5年間 2007年10月1日～2010年3月31日 (平成19年10月1日～平成22年3月31日)

### 5.戦略体系と施策戦術の概要

FFG「第二次中期経営計画」の戦略体系は、営業戦略、リスクマネジメント戦略、事務戦略、IT戦略、人財戦略、クオリティ戦略の6つの戦略で構成します。

営業戦略では、商品・マーケティング開発を一元的に行う体制を整え、傘下3行の充実したネットワークを活用しながら「広域戦略」を展開し、顧客基盤を拡大してまいります。

リスクマネジメント戦略では、リスク管理水準を高度化させ、様々なリスクを統一的な目線で統合的に管理するグループリスク管理体制を構築します。事務戦略では、3行の事務規定・処理体制を共通化し、グループで事務効率化を実現させてまいります。IT戦略では、3行のシステムを統合し、競争力あるIT基盤を構築いたします。人財戦略では、グループ人員の戦略的再配置を行い、営業戦力強化を図ります。クオリティ戦略では、3行で共有するFFG経営理念の下、グループブランドを構築し、一体感を醸成するとともに、コンプライアンスをグループ最重要課題と位置づけ厳格な態勢で臨みます。

FFG	戦略体系	施策・戦術の概要
福岡銀行	営業戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品・マーケティング開発の一元化</li> <li>・マルチブランド(3ブランド)による広域展開型営業</li> <li>・グループチャネルの戦略的活用</li> </ul>
	リスクマネジメント戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループリスク管理体制の構築</li> <li>・不良債権問題との訣別</li> </ul>
熊本ファミリー銀行	事務戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務規定・処理体制の共通化</li> <li>・事務バックオフィス集約による効率化</li> </ul>
	IT戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3行のシステム統合</li> <li>・競争力あるグループIT基盤の構築</li> </ul>
親和銀行	人財戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ人的リソースの戦略的再配置</li> <li>・グループ人財の育成</li> </ul>
	クオリティ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループコンプライアンス態勢の強化</li> <li>・ブランド構築によるグループ一体感の醸成</li> </ul>

## 6.目標とする経営指標

FFG「第二次中期経営計画」最終年度（21年度）における、目標とする経営指標は、「連結当期純利益」「連結不良債権比率」「連結ROE」「3行合算OHR」の4指標とします。

目標とする4指標以外の指標「連結自己資本比率」「連結Tier 比率」は、「第二次中期経営計画」のシナリオを前提に次のような水準を見込んでおります。

		19年度	20年度	21年度	金利上昇時 21年度
目標指標	連結当期純利益	310億円	385億円	500億円	600億円
	連結不良債権比率	4%台後半	3%程度	2%台半ば	同左
	連結ROE	5%台半ば	6%程度	7%台半ば	8%台半ば
	3行合算OHR	50%台後半	50%台半ば	50%台前半	40%台後半
指標 その他	自己資本比率	8%台半ば	8%台後半	9%程度	9%程度
	Tier 比率	5%程度	5%台半ば	6%程度	6%程度

参考：3行単純合算

		19年度	20年度	21年度	21年度
3行単純合算	コア業務純益	774億円	940億円	1,000億円	1,170億円
	当期純利益	254億円	465億円	575億円	680億円
	不良債権比率	4%台後半	3%程度	2%台半ば	同左
	OHR	50%台後半	50%台半ば	50%台前半	40%台後半
	中小企業等貸出金	6兆円	6.2兆円	6.4兆円	同左
福岡銀行	コア業務純益	625億円	685億円	750億円	905億円
	当期純利益	230億円	360億円	405億円	495億円
	不良債権比率	2%程度	1%台後半	1%台半ば	同左
	OHR	50%台半ば	50%台前半	40%台後半	40%台前半
	中小企業等貸出金	4.1兆円	4.3兆円	4.5兆円	同左
熊本ファミリー銀行	コア業務純益	81億円	95億円	105億円	110億円
	当期純利益	5億円	30億円	70億円	75億円
	不良債権比率	4%程度	3%台前半	2%台後半	同左
	OHR	60%台後半	60%台半ば	60%台前半	60%台前半
	中小企業等貸出金	8,500億円	8,800億円	9,000億円	同左
親和銀行	コア業務純益	68億円	130億円	145億円	155億円
	当期純利益	35億円	75億円	100億円	110億円
	不良債権比率	15%台半ば	7%程度	5%台後半	同左
	OHR	60%台後半	60%台後半	60%台前半	60%台前半
	中小企業等貸出金	1.1兆円	1兆円	1兆円	同左

\* 親和銀行の19年度損益は下半期のみ

\* 不良債権比率は部分直接償却後

\* 前提条件（金利シナリオ）

金利横這い：19年度下半期 0/N金利0.50%、1年TIBOR0.85%、10年SWAP1.85%

：20年度以降 0/N金利0.75%、1年TIBOR1.15%、10年SWAP1.90%

金利上昇：0/N金利0.75%～1.75%、1年TIBOR1.15%～2.00%、10年SWAP1.90%～2.55%

## 7. 配当方針

F F Gはすべてのステークホルダーに対し、価値創造を提供する金融グループを目指すとともに、株主の皆さまのご期待にお応えするために、業績連動型の配当方式を設定し、2008年3月期以降において、連結当期純利益の水準に応じて配当金をお支払いする方針といたします。

連結当期純利益水準	1株あたり配当金目安
～ 250億円以下	年間 7円～
250億円超～ 300億円以下	年間 8円～
300億円超～ 350億円以下	年間 9円～
350億円超～ 400億円以下	年間 10円～
400億円超～ 450億円以下	年間 11円～
450億円超～ 500億円以下	年間 12円～
500億円超～ 550億円以下	年間 13円～
550億円～	年間 14円～

但し、事業展開やリスク環境等により変更することがあります。

## 8.子銀行の中期経営計画

F F G「第二次中期経営計画」の策定に合わせ、福岡銀行、熊本ファミリー銀行及び親和銀行の新しい中期経営計画を策定しました。

3行は、F F Gグループ中計に基づき、各々の強みを活かした営業戦略の展開と、グループ力を活用した高度な金融サービスを提供するとともに、サービス品質の向上を図ることで、顧客基盤を拡大してまいります。

### (1)福岡銀行の中期経営計画

#### ア.中期経営計画の概要

ネーミング 計画期間	目標指標 (Q1年度)	金利横這い	金利上昇
中期経営計画 2008、 期間:2007年10月～2010年3月 (Q5年)	コア業務純益	750億円	905億円
目指す銀行像	当期純利益	405億円	495億円
期待を超える銀行	不良債権比率	1%台	同左
基本方針	OHR	40%台後半	40%台前半
知と行動の総力展開	中小企業等貸出金	4.5兆円	同左

#### イ.戦略・施策体系

福岡銀行の中期経営計画は、“サービス品質の向上”を“顧客基盤の拡大”に繋げる中計とし、県内貸出金シェア30%の達成に向けた戦略・施策を実施してまいります。

営業戦略では、競争力ある商品・マーケティング力を活用したフルラインアップの法人営業展開、クロスセルを核とした個人営業のビジネスモデル構築に取り組みます。

リスクマネジメント戦略では、リスクとリターンの統合コントロール体制を構築します。事務戦略では利用者満足度を高める事務改革を実施し、IT戦略では、営業戦略を支えるIT基盤を構築してまいります。人財戦略では、研修施設を充実させ研修体系を再構築し人的資本の充実と戦略的配置を実施します。クオリティ戦略ではグループ经营理念・ブランディングの浸透による企業カルチャーの変革に加え、コンプライアンス態勢の強化に取り組みます。

戦略体系	施策・戦術の概要
営業戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>フルラインアップの営業展開</li> <li>競争力ある商品・サービスの総合マーケティング展開</li> </ul>
リスクマネジメント戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクとリターンのコントロール体制の構築</li> <li>統合的リスク管理体制の構築</li> </ul>
事務戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者満足度を高める事務改革</li> <li>グループ内の事務統一</li> </ul>
IT戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業戦略を支えるIT基盤の構築</li> <li>システム基盤の機能強化</li> </ul>
人財戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>人的資本の充実と戦略的配置</li> <li>研修施設を活用した人財育成と営業戦力強化</li> </ul>
クオリティ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業カルチャーの変革</li> <li>コンプライアンス態勢の強化</li> </ul>

## (2) 熊本ファミリー銀行の中期経営計画

### ア. 中期経営計画の概要

ネーミング 計画期間	目標指標 (Q1年度)	金利横這い	金利上昇
中期経営計画 2008」 期間:2007年10月～2010年3月 (Q5年)	コア業務純益	105億円	110億円
目指す銀行像	当期純利益	70億円	75億円
地域になくてはならない銀行」	不良債権比率	2%台	同左
基本方針	OHR	60%台前半	60%台前半
攻めの経営、規律ある経営」	中小企業等貸出金	9,000億円	同左

### イ. 戦略・施策体系

熊本ファミリー銀行の中期経営計画では、F F Gの統一した経営戦略に基づき、グループの持つ広範なネットワークや高度な金融商品・サービスを活用しながら顧客基盤の拡大を図り、併せて事務・システムの共通化による効率化の追求、リスク管理体制の高度化等に取り組みます。

営業戦略では、熊本ファミリー銀行の強みであるFace to Faceでのリテール営業を一層強化し、熊本県内のリテール営業に重点を置いた施策を展開してまいります。

リスクマネジメント戦略では、リスク管理の高度化とリスクマネジメント体制を構築してまいります。事務戦略・IT戦略では、福岡銀行との事務の統一やシステム統合を実現し効率化を図ります。人財戦略では、グループで人財育成に取り組み人的資本の充実と戦略的配置を実施します。クオリティ戦略ではグループ経営理念・ブランディングの浸透による企業カルチャーの変革に加え、コンプライアンス態勢の強化に取り組みます。

戦略体系	施策 戦術の概要
営業戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 営業スタイルの変革</li> <li>• Face to Faceの強みを活かしたリテールフォーカス</li> </ul>
リスクマネジメント戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リスクマネジメント体制の確立</li> <li>• 信用リスク管理のさらなる強化</li> </ul>
事務戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 福岡銀行との事務統一</li> <li>• グループでの事務集中化 効率化の実現</li> </ul>
IT戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 福岡銀行とのシステム統合</li> <li>• システムリスク管理体制の強化</li> </ul>
人財戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人的資本の充実と戦略的配置</li> <li>• グループ力を活用した人財育成</li> </ul>
クオリティ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 企業カルチャーの変革</li> <li>• コンプライアンス態勢の強化</li> </ul>

### (3) 親和銀行の中期経営計画

#### ア. 中期経営計画の概要

ネーミング 計画期間	目標指標 (Q1年度)	金利横這い	金利上昇
中期経営計画 2008」 期間:2007年10月～2010年3月 (Q.5年)	コア業務純益	145億円	155億円
目指す銀行像	当期純利益	100億円	110億円
地域と共に発展・成長する銀行」	不良債権比率	5%台	同左
基本方針	OHR	60%台前半	60%台前半
変革と進化」	中小企業等貸出金	1兆円	同左

#### イ. 戦略・施策体系

親和銀行の中期経営計画では、F F Gがこれまで培ったノウハウを活用し、最大の課題である「不良債権問題との訣別」および「抜本的な収益力強化」を同時実現させ、地域の皆様に良質な金融サービスを安定的に提供していく県内トップバンクを目指して、次の施策に取り組んでまいります。

営業戦略では、営業リソースを長崎県内へ集中投下するとともに、F F Gグループ力を活かした営業を展開し、サービス品質の向上で顧客基盤を拡大していく抜本的な収益力強化を実現します。

リスクマネジメント戦略では、F F Gのノウハウを最大限に活用し、不良債権処理とお取引先の事業再生の早期実現により不良債権問題との訣別を図ります。また、リスク管理の高度化とリスクマネジメント体制構築に取り組めます。事務戦略・IT戦略では、福岡銀行との事務の統一やシステム統合を実現し効率化を図ります。人財戦略では、グループで人財育成に取り組み、人的資本の充実と戦略的配置を実施します。クオリティ戦略ではグループ経営理念・ブランディングの浸透による企業カルチャーの変革に加え、コンプライアンス態勢の強化に取り組めます。

戦略体系	施策・戦術の概要
営業戦略	・抜本的な収益力強化 ・県内顧客基盤の深掘りによる長崎県トップバンクの実現
リスクマネジメント戦略	・不良債権問題との訣別 ・統合的リスク管理体制の構築
事務戦略	・福岡銀行との事務統一 ・グループでの事務集中化 効率化の実現
IT戦略	・福岡銀行とのシステム統合 ・システムリスク管理体制の強化
人財戦略	・人的資本の充実と戦略的配置 ・グループ力を活用した人財育成
クオリティ戦略	・企業カルチャーの変革 ・コンプライアンス態勢の強化

以上

本件に関するご照会は下記までお願いいたします。  
 ふくおかフィナンシャルグループ  
 経営企画部（牛島・廣田・花田）  
 電話 092-723-2502